

令和8年度 佐賀市立久保泉小学校 教育課程

1 学校教育目標

夢に向かって 共に学び合う 笑顔あふれる 子どもの 育成
～かしこく やさしく たくましく ふるさとを愛する 久保泉っ子～

2 本年度の重点目標

・「学ぶ」ことの大切さを知り、「分かる」喜びと「できる」楽しさを感じさせる教育活動を推進する。「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させ、学習意欲の向上を図り、自分(たち)の伸びや成長を実感させる。(自立)
・規律のある生活習慣・学習習慣を身に付けさせ、互いを大切に、安心して過ごすことができると実感させる。「学校に来てよかった」「学校は楽しい」と感じさせる活動を仕組み、達成感・充実感を味わわせる。(尊重)
・主体的な活動を通して、自分(たち)で学校生活や学習活動を改善し、向上させられたと実感させる。実行委員体制を取り入れ、自分(たち)で「つくる活動」に取り組みせ、新たな価値を生み出させる。(創造)

3 重点取組内容

(1) 学習指導の充実

佐賀市教育ビジョン(自律)の下、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
・漢字の先取り学習や「百ます計算」など、全校一斉に取り組む「のびるタイム(音読、漢字、計算)」を活用し、基礎学力の向上を目指す。
・「授業づくりステップ1・2・3」に基づいた授業づくりとICT機器を活用した授業づくりに取り組み、授業の質の改善を図る。
・授業中の取組だけでなく、「雄飛学園メソッド」に基づいて家庭学習を充実させることで学力向上に取り組む。特に自主学習的内容を取り入れることで児童の「課題を自ら見だし、考える」力の育成を目指す。

(2) 生徒指導の充実

佐賀市学校教育ビジョン(尊重)の下、開発的生徒指導(出番・役割・承認)を推進し、学校生活全般において児童の主体性と当事者意識を高める取組を進める。
・3つの「あ」(あいさつ・あんぜん・ありがとう)の取組と「雄飛学園メソッド」に基づいた生活習慣の定着を図ることで規律ある行動を定着させる。
・毎月初めの全校昼会で月の生活目標について児童とともに確認する時間を設け、主体的に行動しようとする意欲を高める。
・学期初めの「レインボー作戦」、月初めの「心のアンケート」、を通して、いじめ未然防止のための指導を継続的に行う。また、年2回の教育相談週間、年4回の「人権教室」を通して、担任と児童、児童同士の信頼関係構築に努める。
・教職員に向けた「久保泉メソッド」を作成し、全教職員の共通理解・共通実践のもと児童の指導にあたる。

(3) 特別支援教育の充実

佐賀市教育ビジョン(尊重)の下、連続性のある多様な学びの場を充実させ、児童の「社会的自立」に向けた取組を進める。
・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた適切な指導・支援(教育の個別最適化)に取り組む。
・掲示物や教室掲示の方法を全学年で統一するなど、ユニバーサルデザインの取組を充実させる。
・児童支援会議における情報共有や学校生活支援員の時間割を定期的に組み直すこと、保護者との密な連携などを通して全教職員が児童の困り感に対応できるようにし、配慮を要する児童への個別の支援を充実させる。

(4) 特別活動(学級活動)の充実

佐賀市教育ビジョン(創造)の下、他者と対話しながら、友達と試行錯誤・挑戦する場を設定し、教職員と児童と一緒に教育活動を創る取組を進める。
・学級活動(話し合い活動を中心に)を校内研究のテーマに据え、対立やジレンマを乗り越え、合意形成する力や、新しい価値を生み出す力を育成する。
・異学年集団活動の充実を通して、心の交流を図り、互いを思いやる心を育てる。
・実行委員形式を用いた学校行事運営を行うなど、自分たちでつくり上げていく意義を実感できる教育活動を仕組み、児童の自主性や主体性と当事者意識を高める。
・各教科等の学習と関連付けたり、地域・保護者等との連携を取りながら実践を重ねたりして、「自分の夢や生き方」についても考える機会を設定する。

(5) 雄飛学園教育(小中連携)の充実

金立小学校と金泉中学校の三校で連携し、雄飛学園教育の推進を図り、教職員の相互理解や合同研修を通して、学力の向上や生徒指導の充実を図る。
・「雄飛学園メソッド」に基づいて、「めざす15歳の姿」に向かって9年間で子どもを育てるという考え方で取り組む。
・授業公開の交流を通し、教師間での研鑽を深め、学力の向上を目指す。
・毎月の雄飛学園校長会、年4回の合同研修会を通して、学習面、生活面について連携を図る。